

# 年男



根室市外三郡医師会  
市立根室病院

やま もと やす し  
山 本 恭 史

年男（48歳）ということで新春随想の原稿依頼をいただいた。これまで年男ということ意識したことがなかったので、これまで年男の時に何をしていたか、今後の年男に何をしているのかに想いを巡らせてみた。

## 年男1回目（12歳）

中学進学ということで地元（根室）を離れて札幌に送り出された。世間はバブル景気まただ中で景気のいいニュースが溢れていた。大人になったら景気のいい素敵な世界が待っているのかと思ったら、全くそんなことはなかった……。

最近も株高・土地高のニュースはよく耳にする。バブルの二の舞にならなければいいと思うばかりである。

## 年男2回目（24歳）

大学から関西での生活となり建築を学んでいた。介護保険が始まった頃で高齢者施設やグループホームなどの量・質的改善が課題であり、建築側から生活環境やケア環境を考察するため、グループホームに泊まり込んで認知症高齢者と一緒に生活していた。その中で、建物も大事だが、最後までその人らしく生活できる物的・人的環境を整えるのが大切だと学んだ。世の中の景気はどん底で就職氷河期であったが、運よく大手建設会社の医療福祉部門に就職。

## 年男3回目（36歳）

紆余曲折あり社会人から医学部に編入学し卒業、年男3回目は研修医1年目まただ中。手稲溪仁会病院で研修させていただいた。教育熱心な指導医、優秀な先輩・同期に囲まれて大変な日々であったが、臨床医としての基礎を叩き込んでもらったのは何のものにも代えがたく感謝するばかりである。病院での記憶しかないので一生懸命働いていたのだと思う。

## 年男4回目（48歳）

現在は地元に戻り、市立根室病院で内科医として働いている。「僻地でもまともな医療を」を個人スローガンにできる範囲で頑張っている。子供の頃にお世話になった方々は高齢者になり、病院でお会いすることも多いが、住み慣れた土地で最後まで自分らしく生活できるよう、他職種の力を借りながらサポートを続けていこうと思う。

## 年男5回目（60歳）予想

おそらく根室で医師を続けていると思うが、さらなる高齢化、人口減少、皆保険制度の持続可能性など社会環境の変化により、地方の病院はどこまで持ちこたえられるのか不安は多い。それらの課題に対応していくことが、この先12年の中で必要なのだと思うし、僕らの世代の義務だと思う。微力ではあるが前を向いて頑張ろう。

## 年男6回目（72歳）予想

まだ働いている気がするが……。

## 年男7回目（84歳）予想

そろそろさようなら。

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げます。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性7,070名・女性1,094名の合計8,164名（12月11日現在）。そのうち巳年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

(名)

	男性	女性	合計
36歳	25	5	30
48歳	102	23	125
60歳	197	44	241
72歳	175	14	189
84歳	46	1	47
96歳	4	0	4
合計	549	87	636